

科目名	情報処理試験特別講座Ⅱ(秋向) 応用情報技術者					
科目名(英)						
単位数	4	時間数	60	担当者	國房 篤子	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当	
対象学科・学年	システムエンジニア科2年					
授業概要	応用情報技術者試験の問題を通して、システムエンジニアに必要な知識や技能を身に付ける。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				テクノロジー系の知識を身に付け、午前・午後問題を解けるようになる。
	○	○				マネジメント系の知識を身に付け、午前問題を解けるようになる。
	○	○				ストラテジ系の知識を身に付け、午前問題を解けるようになる。
テキスト・教材 参考図書	過去問題(プリント)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	ミニテスト(H30春～R01秋の問題)、午後問題の概要			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	2	R01秋の午後問題の間1を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	3	R01秋の午後問題の間3を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	4	R01秋の午後問題の間4を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	5	R01秋の午後問題の間5を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	6	R01秋の午後問題の間6を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	7	R01秋の午後問題の間7を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	8	R01秋の午後問題の間8を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	9	H31春の午後問題の間1を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	10	H31春の午後問題の間3を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	11	H31春の午後問題の間4を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	12	H31春の午後問題の間5を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	13	H31春の午後問題の間6を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	14	H31春の午後問題の間7を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	15	H31春の午後問題の間8を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	16	模擬試験を解く			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	17	模擬試験を解く			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	18	模擬試験の解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	19	模擬試験の解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	20	H30秋の午後問題の間1,5を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	21	H30秋の午後問題の間3を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	22	H30秋の午後問題の間4,7を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	23	H30秋の午後問題の間6を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	24	模擬試験を解く			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	25	模擬試験を解く			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
26	模擬試験の解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習		

	27	模擬試験の解説						授業で解いた問題を理解し解けるまで復習
	28	H30春の午後問題を解く						授業で解いた問題を理解し解けるまで復習
	29	H30春の午後問題を解く						授業で解いた問題を理解し解けるまで復習
	30	H30春の午後問題の解説						授業で解いた問題を理解し解けるまで復習
		※学習する内容・分野の順番は、4月1日時点での予定						
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験(国家試験)	◎	◎				80%	
	模擬試験とミニテスト	◎	◎				20%	
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	情報処理試験特別講座Ⅱ(秋向) 安全支援確保士試験					
科目名(英)						
単位数	4	時間数	60	担当者	山田 貴文	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当	
対象学科・学年	システムエンジニア科2年					
授業概要	情報処理安全確保支援士の過去問題を通して、エンジニアに必要な知識や技能を身に付ける。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	○	○				攻撃手法についての知識を付ける
		○		○		攻撃実験を行うことで実際のセキュリティ感覚を身に付ける
	○	○				情報セキュリティの安全確保の知識を付ける
テキスト・教材 参考図書	過去問題(プリント)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	午後Ⅰ(R02年春)を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	2	午後Ⅰ(R02年春)を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	3	午後Ⅰ(R02年春)を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	4	午後Ⅰ(R02年春)を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	5	午後Ⅱ(R02年春)を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	6	午後Ⅱ(R02年春)を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	7	午後Ⅱ(R02年春)を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	8	午後Ⅱ(R02年春)を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	9	午後Ⅰ(R01年秋)を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	10	午後Ⅰ(R01年秋)を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	11	午後Ⅰ(R01年秋)を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	12	午後Ⅰ(R01年秋)を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	13	午後Ⅱ(R01年秋)を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	14	午後Ⅱ(R01年秋)を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	15	午後Ⅱ(R01年秋)を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	16	午後Ⅱ(R01年秋)を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	17	午後Ⅰ(H31年春)を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	18	午後Ⅰ(H31年春)を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	19	午後Ⅰ(H31年春)を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	20	午後Ⅰ(H31年春)を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	21	午後Ⅱ(H31年春)を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	22	午後Ⅱ(H31年春)を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	23	午後Ⅱ(H31年春)を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	24	午後Ⅱ(H31年春)を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	25	午後Ⅰ(H30年秋)を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	26	午後Ⅰ(H30年秋)を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	

	27	午後 I (H30年秋)を解き、解説-3	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
	28	午後 II (H30年秋)を解き、解説-1	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
	29	午後 II (H30年秋)を解き、解説-2	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
	30	午後 II (H30年秋)を解き、解説-3	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
		※学習する内容・分野の順番は、4月1日時点での予定					
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(国家試験)	◎	◎				80%
	模擬試験とミニテスト	◎	◎				20%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	情報処理試験 特別講座Ⅱ(秋向) 基本情報技術者試験					
科目名(英)						
単位数	4	時間数	60	担当者	新納 美佳、中西 伸二	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当	
対象学科・学年	システムエンジニア科2年					
授業概要	基本情報技術者試験試験の合格を目標に、主に午後問題の解説を行う。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				基本情報技術者試験試験の合格を目標とする。
テキスト・教材 参考図書	基本情報技術者試験試験過去問題(IPAのホームページより) 模擬試験					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	基本情報技術者試験	過去問対策(R02年春)-1	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	2	基本情報技術者試験	過去問対策(R02年春)-2	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	3	基本情報技術者試験	過去問対策(R02年春)-3	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	4	基本情報技術者試験	過去問対策(R01年秋)-1	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	5	基本情報技術者試験	過去問対策(R01年秋)-2	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	6	基本情報技術者試験	過去問対策(R01年秋)-3	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	7	基本情報技術者試験	過去問対策(H31年春)-1	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	8	基本情報技術者試験	過去問対策(H31年春)-2	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	9	基本情報技術者試験	過去問対策(H31年春)-3	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	10	基本情報技術者試験	模擬試験(Itec午後)-1	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	11	基本情報技術者試験	模擬試験(Itec午後)-2	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	12	基本情報技術者試験	模擬試験(Itec)-1 解説	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	13	基本情報技術者試験	模擬試験(Itec)-2 解説	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	14	基本情報技術者試験	過去問対策(H30年秋)-1	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	15	基本情報技術者試験	過去問対策(H30年秋)-2	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	16	基本情報技術者試験	過去問対策(H30年秋)-3	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	17	基本情報技術者試験	過去問対策(H30年春)-1	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	18	基本情報技術者試験	過去問対策(H30年春)-2	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	19	基本情報技術者試験	過去問対策(H30年春)-3	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	20	基本情報技術者試験	模擬試験(TAC午前)-1	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	21	基本情報技術者試験	模擬試験(TAC午前)-2	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	22	基本情報技術者試験	模擬試験(TAC午後)-3	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	23	基本情報技術者試験	模擬試験(TAC午後)-4	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	24	基本情報技術者試験	模擬試験(TAC)-1 解説	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	25	基本情報技術者試験	模擬試験(TAC)-2 解説	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		
	26	基本情報技術者試験	模擬試験(TAC)-3 解説	前回解いた問題を、もう1度解しておくこと		

	27	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC)-4 解説	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	28	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年秋)-1	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	29	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年秋)-2	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	30	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年秋)-3	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
		※授業内容は、4月1日時点での予定					
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)定期試験は基本情報・本試験とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	平常点(ミニテスト)	◎	◎				20%
履修上の注意	自宅で必ず復習(今日解いた問題の見直し)を行うこと。						

科目名		情報処理試験講座Ⅱ(春向) 応用情報技術者試験対策				
科目名(英)						
単位数	4	時間数	60	担当者	國房 篤子	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当	
対象学科・学年	システムエンジニア科2年					
授業概要	応用情報技術者試験の問題を通して、システムエンジニアに必要な知識や技能を身に付ける。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				テクノロジー系の知識を身に付け、午前・午後問題を解けるようになる。
	○	○				マネジメント系の知識を身に付け、午前問題を解けるようになる。
	○	○				ストラテジ系の知識を身に付け、午前問題を解けるようになる。
テキスト・教材 参考図書	過去問題(プリント)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	R02春午前問題を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	2	R02春午前問題を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	3	R02春午前問題を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	4	R02春午前問題を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	5	R02春午前問題を解き、解説-5			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	6	H31秋の午前問題を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	7	H31秋の午前問題を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	8	H31秋の午前問題を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	9	H31秋の午前問題を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	10	H31秋の午前問題を解き、解説-5			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	11	ミニテスト(R01春H31秋の問題)			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	12	H31春の午前問題を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	13	H31春の午前問題を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	14	H31春の午前問題を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	15	H31春の午前問題を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	16	H31春の午前問題を解き、解説-5			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	17	ミニテスト(H31春の問題)、午後問題の概要			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	18	R02春の午後問題の間1を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	19	R02春の午後問題の間3を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	20	R02春の午後問題の間4を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	21	R02春の午後問題の間5を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	22	R02春の午後問題の間6を解き、解説-5			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	23	R02春の午後問題の間7を解き、解説-6			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	24	R02春の午後問題の間8を解き、解説-7			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	25	H31秋の午後問題の間1を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
26	H31秋の午後問題の間3を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習		

	27	H31秋の午後問題の問4を解き、解説-3	授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習				
	28	H31秋の午後問題の問5を解き、解説-4	授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習				
	29	H31秋の午後問題の問6を解き、解説-5	授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習				
	30	H31秋の午後問題の問7を解き、解説-6	授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習				
		※学習する内容・分野の順番は、4月1日時点での予定					
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	ミニテスト	◎	◎				40%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	情報処理試験講座Ⅱ(春向) ITパスポート試験対策				
科目名(英)					
単位数	4	時間数	60	担当者	國房篤子,毛利俊司
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当
対象学科・学年	システムエンジニア科2年				
授業概要	ITパスポート試験合格を目標に、ストラテジ分野、マネジメント分野、テクノロジー分野の学習を行っていく。				
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	目標				
	ストラテジ分野、マネジメント分野、テクノロジー分野を学習し、ITパスポート試験試験の合格を目標とする。				
テキスト・教材 参考図書	でるとこだけ！ITパスポート2020年版(翔泳社) ITパスポート試験過去問題(プリント)				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	ITパスポート試験 過去問対策(H31年秋)-1			テキストの「ITパスポートの概要」を読んでおくこと
	2	ITパスポート試験 過去問対策(H31年秋)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	3	ITパスポート試験 過去問対策(H31年秋)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	4	ITパスポート試験 過去問対策(H31年秋)-4			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	5	ITパスポート試験 過去問対策(H31年秋)-5			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	6	ITパスポート試験 過去問対策(H31年秋)-6			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	7	ITパスポート試験 過去問対策(H31年秋)-7			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	8	ITパスポート試験 過去問対策(H31年春)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	9	ITパスポート試験 過去問対策(H31年春)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	10	ITパスポート試験 過去問対策(H31年春)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	11	ITパスポート試験 過去問対策(H31年春)-4			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	12	ITパスポート試験 過去問対策(H31年春)-5			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	13	ITパスポート試験 過去問対策(H31年春)-6			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	14	ITパスポート試験 過去問対策(H31年春)-7			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	15	ITパスポート試験 過去問対策(H30年秋)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	16	ITパスポート試験 過去問対策(H30年秋)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	17	ITパスポート試験 過去問対策(H30年秋)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	18	ITパスポート試験 過去問対策(H30年秋)-4			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	19	ITパスポート試験 過去問対策(H30年秋)-5			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	20	ITパスポート試験 過去問対策(H30年秋)-6			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	21	ITパスポート試験 過去問対策(H30年秋)-7			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	22	ITパスポート試験 過去問対策(H30年春)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	23	ITパスポート試験 過去問対策(H30年春)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	24	ITパスポート試験 過去問対策(H29年春)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	25	ITパスポート試験 過去問対策(H30年春)-4			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
26	ITパスポート試験 過去問対策(H30年春)-5			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	

	27	ITパスポート試験 過去問対策(H30年春)-6	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	28	ITパスポート試験 過去問対策(H30年春)-7	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	29	ITパスポート試験 過去問対策(eラーニング,H31年春秋)	H30年度の問題を、もう1度解いておくこと				
	30	ITパスポート試験 過去問対策(eラーニング,H30年春秋)	H29年度の問題を、もう1度解いておくこと				
		※授業内容は、4月1日時点での予定					
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	平常点(ミニテスト)	◎	◎				20%
履修上の注意	自宅で必ず復習(今日解いた問題の見直し)を行うこと。						

科目名	情報処理試験講座Ⅱ(春向) 情報処理安全確保支援士試験対策					
科目名(英)						
単位数	4	時間数	60	担当者	山田 貴文	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当	
対象学科・学年	システムエンジニア科2年					
授業概要	情報セキュリティを深く理解することを目的として、攻撃手法を学び、実機を使って攻撃実験を行う。情報セキュリティに関する現状を知り、セキュリティを確保するための様々な活動を学習する。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	○	○				攻撃手法についての知識を付ける
		○		○		攻撃実験を行うことで実際のセキュリティ感覚を身に付ける
	○	○				情報セキュリティの安全確保の知識を付ける
テキスト・教材 参考図書	Web情報を参考にする。 ※テキストは、4月1日時点での予定					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	午前Ⅱ対策(R02年秋問題)-1			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	2	午前Ⅱ対策(R02年秋問題)-2			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	3	午前Ⅱ対策(R02年秋問題)-3			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	4	午前Ⅱ対策(R02年秋問題)-4			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	5	午前Ⅱ対策(R02年秋問題)-5			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	6	午前Ⅱ対策(R02年春問題)-1			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	7	午前Ⅱ対策(R02年春問題)-2			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	8	午前Ⅱ対策(R02年春問題)-3			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	9	午前Ⅱ対策(R02年春問題)-4			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	10	午前Ⅱ対策(R02年春問題)-5			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	11	午前Ⅱ対策(R01年秋問題)-1			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	12	午前Ⅱ対策(R01年秋問題)-2			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	13	午前Ⅱ対策(R01年秋問題)-3			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	14	午前Ⅱ対策(R01年秋問題)-4			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	15	午前Ⅱ対策(R01年秋問題)-5			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	16	午前Ⅱ対策(H31年春問題)-1			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	17	午前Ⅱ対策(H31年春問題)-2			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	18	午前Ⅱ対策(H31年春問題)-3			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	19	午前Ⅱ対策(H31年春問題)-4			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	20	午前Ⅱ対策(H31年春問題)-5			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	21	午前Ⅱ対策(H30年秋問題)-1			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	22	午前Ⅱ対策(H30年秋問題)-2			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	23	午前Ⅱ対策(H30年秋問題)-3			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
24	午前Ⅱ対策(H30年秋問題)-4			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。		

麻生情報ビジネス専門学校北九州校 シラバス

	25	午前Ⅱ対策(H30年秋問題)-5	時間内に理解できなかった点は復習し習得する。				
	26	午前Ⅱ対策(H30年春問題)-1	時間内に理解できなかった点は復習し習得する。				
	27	午前Ⅱ対策(H30年春問題)-2	時間内に理解できなかった点は復習し習得する。				
	28	午前Ⅱ対策(H30年春問題)-3	時間内に理解できなかった点は復習し習得する。				
	29	午前Ⅱ対策(H30春秋問題)-4	時間内に理解できなかった点は復習し習得する。				
	30	午前Ⅱ対策(H30春秋問題)-5	時間内に理解できなかった点は復習し習得する。				
		※学習する分野の内容・順番は、4月1日時点での予定					
評価方法	定期試験は、攻撃手法の知識、安全確保の知識を身に付けたかどうかで、評価を行う。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト		◎		○		20%
	定期試験	○	◎				80%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	Visual C# II						
科目名(英)	Visual C# II						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中西 伸二		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	企業にてシステムエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	システムエンジニア科・2年						
授業概要	前期で学んだC#の基本的なプログラミングに加えて、応用的なプログラミングを学んでいく。 今回はWindowsフォームアプリケーションからADOを利用したデータベース操作の習得を目標とした授業を行う。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					ADO、Accessについて理解する	
		○				Accessに接続してデータベースを操作するアプリケーションを作成する	
テキスト・教材 参考図書	自作資料(PowerPoint)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ADO、Accessの基本知識					
	2	フォームにテーブルの内容一覧を表示する					
	3	【演習】フォームにテーブルの内容一覧を表示する					
	4	フォームからテーブルの内容を更新する					
	5	【演習】フォームからテーブルの内容を更新する					
	6	フォームからテーブルの内容を追加する					
	7	【演習】フォームからテーブルの内容を追加する					
	8	フォームからテーブルの内容を削除する					
	9	【演習】フォームからテーブルの内容を削除する					
	10	【演習】マスタ編集アプリケーションを作成する					
	11	【演習】マスタ編集アプリケーションを作成する					
	12	【演習】マスタ編集アプリケーションを作成する					
	13	【演習】マスタ編集アプリケーションを作成する					
	14	【演習】マスタ編集アプリケーションを作成する					
	15	【演習】マスタ編集アプリケーションを作成する					
評価方法	(1)授業の中で演習課題を4回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(演習)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				50%
	小テスト						
	宿題・レポート						
発表・作品		◎		○		50%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	システム構築 I					
科目名(英)	System construction I					
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	中西 伸二	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	企業にてシステムエンジニアとして勤務	
対象学科・学年	システムエンジニア科・2年					
授業概要	要件定義・設計・実装・テストというシステム開発の一連の工程を学び、提示したテーマについて実際にシステム開発を行い、システムエンジニア・プログラマの業務内容を理解する。また、スケジュール管理やマイルストーンの設定等、プロジェクトマネジメントで行われる管理手法についても学習する。					
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				システム設計の流れを理解し、外部設計書を作成できる。
		○				設計書を元にプログラムを作成し、システムを構築できる。
	○	○				作成したシステムに対する適正なテストを実施できる。
		○				マニュアルを作成できる。
テキスト・教材 参考図書						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	要件定義の流れ				
	2	計画書作成およびレビュー				
	3	設計の流れ				
	4	外部設計書作成				
	5	外部設計書作成				
	6	外部設計書作成				
	7	レビュー				
	8	外部設計書作成				
	9	外部設計書作成				
	10	外部設計書作成				
	11	プレゼンテーション				
	12	プログラミング				
	13	プログラミング				
	14	プログラミング				
	15	プログラミング				
	16	プログラミング				
	17	プログラミング				
	18	プログラミング				
	19	テスト手法・テスト仕様書				
	20	テスト				
	21	テスト				
	22	プレゼンテーション				
23	ドキュメンテーション					
	(1)作成した文書・プログラムの提出。設計完了およびシステム完成時にプレゼンテーションを行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					

評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題		◎				80%
	平常点				◎		20%
履修上の注意	課題未提出の場合は、評価対象外となる。						

科目名	Webデザイン制作演習					
科目名(英)	Web design production practice					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	毛利 俊司	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当	
対象学科・学年	システムエンジニア科・2年					
授業概要	前期の演習では、HTMLとCSSを使用した静的コンテンツを作成することを目的としてきたが、今回はjQueryや関連モジュールを利用してスライドショーやアニメーションなど動的なコンテンツの実装を行う演習を行う。					
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
		△				Javascript基礎
		○				jQueryの利用
		○				jQueryのライブラリを使用したプログラミング
		○				レスポンスWebデザイン
		○				PC、スマートデバイス両対応したWebコンテンツの作成
テキスト・教材 参考図書	シフトブレイン jQuery 最高の教科書 自作資料					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	jQueryの基礎知識			事前に教科書を読んでおく	
	2	jQueryの実行環境の準備			事前に教科書を読んでおく	
	3	サンプルコード作成(CSSのスタイル変更)			事前に教科書を読んでおく	
	4	サンプルコード作成(メソッドチェーン)			事前に教科書を読んでおく	
	5	サンプルコード作成(アニメーション)			事前に教科書を読んでおく	
	6	変数と配列、関数と無名関数			事前に教科書を読んでおく	
	7	演算子と制御文			事前に教科書を読んでおく	
	8	ホバーエフェクト			事前に教科書を読んでおく	
	9	画像とキャプションの表現			事前に教科書を読んでおく	
	10	見え隠れするサイドバー			事前に教科書を読んでおく	
	11	タイポグラフィ			事前に教科書を読んでおく	
	12	スライドショーの作成①			事前に教科書を読んでおく	
	13	スライドショーの作成②			事前に教科書を読んでおく	
	14	スティッキーヘッダー①			事前に教科書を読んでおく	
	15	スティッキーヘッダー②			事前に教科書を読んでおく	
	16	画面領域の変更を行うタブ			事前に教科書を読んでおく	
	17	スムーズスクロール			事前に教科書を読んでおく	
	18	拡張性のあるスムーズスクロール			事前に教科書を読んでおく	
	19	レスポンスWebデザイン①			事前に教科書を読んでおく	
	20	レスポンスWebデザイン②			事前に教科書を読んでおく	
	21	レスポンスWebデザイン③			事前に教科書を読んでおく	
	22	レスポンスWebデザイン④			事前に教科書を読んでおく	
	23	【演習】企業連携授業			出来ていない分は授業外で進めておく	
	24	【演習】企業連携授業			出来ていない分は授業外で進めておく	
	25	【演習】企業連携授業			出来ていない分は授業外で進めておく	
26	【演習】企業連携授業			出来ていない分は授業外で進めておく		

	27	【演習】企業連携授業					出来ていない分は授業外で進めておく
	28	【演習】企業連携授業					出来ていない分は授業外で進めておく
	29	【演習】企業連携授業					出来ていない分は授業外で進めておく
	30	【演習】企業連携授業					出来ていない分は授業外で進めておく
評価方法	(1)授業の中で演習課題を4回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(演習)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				50%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品		◎		○		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	Java応用						
科目名(英)	Java Application						
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	中西 伸二		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	企業にてシステムエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	システムエンジニア科・2年						
授業概要	オラクル社が提供するJava認定資格試験であるJava Bronzeの対策問題を通して、実践的なJavaプログラミングに必要な知識や技能を身につける。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					Java Bronze試験の問題を解くことができる。	
テキスト・教材 参考図書	Javaプログラマ Bronze SE7/8 (翔泳社) ※テキストは、4月1日時点での予定						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	Java言語のプログラムの流れ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2/3	データの宣言と使用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	確認テスト			該当範囲の内容を復習しておくこと		
	5/6	演算子と分岐文			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7/8	ループ文			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	確認テスト			該当範囲の内容を復習しておくこと		
	10/11	オブジェクト指向コンセプト			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	確認テスト			該当範囲の内容を復習しておくこと		
	13/14	クラス定義とオブジェクトの生成、使用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	確認テスト			該当範囲の内容を復習しておくこと		
	16/17	継承とポリモフィズム			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	18	確認テスト			該当範囲の内容を復習しておくこと		
	19/23	模擬試験・解説			教科書を復習しておくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で確認テストを5回、模擬試験を2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				80%
	平常点(課題・ミニテスト)		◎		◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	アプリケーション開発 I					
科目名(英)	Application development I					
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	中西 伸二	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	企業にてシステムエンジニアとして勤務	
対象学科・学年	システムエンジニア科・2年					
授業概要	PHPを使用したWebアプリケーションを構築しWebサーバー上に構築し簡易的なショッピングサイトを作成できることを目標とする。					
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○					PHPの構文について理解する
	○	○				Webサーバーについて知る、実際に動作させてみる
		○				簡易的なショッピングサイトを作成する
テキスト・教材 参考図書	自作資料(PowerPoint)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	PHPの文法を知る(変数と式)			事前に資料を読んでおくこと	
	2	PHPの文法を知る(制御文)			事前に資料を読んでおくこと	
	3	PHPの文法を知る(関数)			事前に資料を読んでおくこと	
	4	PHPの文法を知る(クラスの利用)			事前に資料を読んでおくこと	
	5	PHPの文法を知る(ファイルの操作)			事前に資料を読んでおくこと	
	6	Webサーバーの利用(Apacheの導入)			Apacheについて予習しておくこと	
	7	Webサーバーの利用(Apacheの設定)			Apacheについて予習しておくこと	
	8	Webサーバーの利用(アプリケーションの利用)			Apacheについて予習しておくこと	
	9	【演習】簡易的なショッピングサイトの作成①			遅れている分は授業外で進めておく事	
	10	【演習】簡易的なショッピングサイトの作成②			遅れている分は授業外で進めておく事	
	11	【演習】簡易的なショッピングサイトの作成③			遅れている分は授業外で進めておく事	
	12	【演習】簡易的なショッピングサイトの作成④			遅れている分は授業外で進めておく事	
	13	【演習】簡易的なショッピングサイトの作成⑤			遅れている分は授業外で進めておく事	
	14	【演習】簡易的なショッピングサイトの作成⑥			遅れている分は授業外で進めておく事	
	15	【演習】簡易的なショッピングサイトの作成⑦			遅れている分は授業外で進めておく事	
	16	【演習】簡易的なショッピングサイトの作成⑧			遅れている分は授業外で進めておく事	
	17	【演習】簡易的なショッピングサイトの作成⑨			遅れている分は授業外で進めておく事	
	18	【演習】簡易的なショッピングサイトの作成⑩			遅れている分は授業外で進めておく事	
	19	【演習】簡易的なショッピングサイトの作成⑪			遅れている分は授業外で進めておく事	
	20	【演習】簡易的なショッピングサイトの作成⑫			遅れている分は授業外で進めておく事	
	21	【演習】簡易的なショッピングサイトの作成⑬			遅れている分は授業外で進めておく事	
	22	【演習】簡易的なショッピングサイトの作成⑭			遅れている分は授業外で進めておく事	
23	【演習】簡易的なショッピングサイトの作成⑮			遅れている分は授業外で進めておく事		

評価方法	(1)授業の中で演習課題を4回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(演習)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				50%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品		◎		○		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	一般教養ⅡB						
科目名(英)	General educationⅡB						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	堀 伸二		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	システムエンジニア科・2年						
授業概要	就職試験における筆記の重要性は増しており、またその内容もSPI・CAB・GABなどといった様々な種類に分かれています。よって、この授業では、演習を通して多くの問題に触れることにより、就職試験の際、柔軟な対応ができるような知識や思考力を身につけることを目的とします。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					就職試験での筆記における頻出問題に対応できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	試験によく出る一般常識問題集 学校から配布される就職試験対策の問題集						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	確認テスト			数学・国語・地理・時事問題等を見ておく事。		
	2	数学-図形-			数学・国語・地理・時事問題等を見ておく事。		
	3	数学-様々な計算-と国語-数詞-			数学・国語・地理・時事問題等を見ておく事。		
	4	数学-速度算・通貨算-			数学・国語・地理・時事問題等を見ておく事。		
	5	数学-集合・組合せ-			数学・国語・地理・時事問題等を見ておく事。		
	6	模擬テスト			数学・国語・地理・時事問題等を見ておく事。		
	7	国語-漢字・慣用句-と数学検定3級の練習問題			数学・国語・地理・時事問題等を見ておく事。		
	8	国語-同音異義語・ことわざ-と数学検定3級の練習問題			数学・国語・地理・時事問題等を見ておく事。		
	※学習する分野の順番は、4月1日時点での予定						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)授業の中で小テストを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	全授業回数の3分の2以上の出席を満たさないものは、定期試験は受験できないものとする。						

科目名	文章表現 I						
科目名(英)	Sentence expression						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	佐藤 智子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	システムエンジニア科・2年						
授業概要	1. 作文を書く時に必要な注意事項や文章の組み立て方、正しい言葉の使い方などを演習問題を使って解いていく。 2. 就職試験で作文の頻出テーマとして扱われるものを実際に書いてもらう。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					就職活動に必要な文章(自己PR, 志望動機)を書く。	
	○					日本語の常識的な知識を身につける。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	敬語			課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させる事		
	2	説明文の書き方			課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させる事		
	3	200字作文			課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させる事		
	4	作文「今までで一番頑張ったこと」400～500字			課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させる事		
	5	作文「失敗から学んだこと」400～500字			課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させる事		
	6	作文「ゆとりをもつことについて」400～500字			課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させる事		
	7	作文「私が大切にしたいこと」400～500字			課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させる事		
	8	作文「こんな仕事がしてみたい」400～500字			課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させる事		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
	※学習する分野の順番は、4月1日時点での予定						
評価方法	(1)毎回授業で扱うプリントや作文を提出し、添削後、評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	◎			○		100%
発表・作品							
履修上の注意	全授業回数の3分の2以上の出席を満たさないものは、評価しないものとする。						

科目名	時事経済						
科目名(英)	Current events & Economy						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	新納 美佳		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	システムエンジニア科・2年						
授業概要	新聞の読み方を理解する。 時事経済の現状把握と用語を理解することで、社会人基礎力を身につける。 ニュースをまとめ、考察し、発表を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					新聞の読み方を理解し、効果的に読むことができる。	
	○					日本および世界の経済ニュースに対する理解を深める。	
テキスト・教材 参考図書	日本経済新聞						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	新聞の読み方			教材の新聞を事前に読んでおくこと		
	2/5	新聞のスクラップ			教材の新聞を事前に読んでおくこと		
	7/8	プレゼンテーション			プレゼン準備を事前に行っておくこと		
評価方法	(1)スクラップした記事を提出する。またニュースに対する考察のプレゼンテーションを行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題		◎				80%
	平常点				◎		20%
履修上の注意	課題未提出の場合は、評価対象外となる。						

科目名	就職実務 I						
科目名(英)	job practice I						
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	新納 美佳		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	システムエンジニア科・2年						
授業概要	就職活動にあたって、必要な予備知識(企業研究、履歴書の書き方、面接対策)を身につける						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					自分の志望する会社を様々な媒体で調べることができる(企業研究)	
	○					企業に対して見栄えのいい履歴書の作成が出来る	
	○					印象のいい面接の技術を身につける	
テキスト・教材 参考図書	就職ガイドブック						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	働くことについて考える			不足分は学校外で消化しておくこと		
	2	志望する業種を考える			不足分は学校外で消化しておくこと		
	3	志望動機を考える①			不足分は学校外で消化しておくこと		
	4	志望動機を考える②			不足分は学校外で消化しておくこと		
	5	自己PRの作成①			不足分は学校外で消化しておくこと		
	6	自己PRの作成②			不足分は学校外で消化しておくこと		
	7	履歴書を作成する①			不足分は学校外で消化しておくこと		
	8	履歴書を作成する②			不足分は学校外で消化しておくこと		
	9	志望職種の企業を調べてみる①			不足分は学校外で消化しておくこと		
	10	志望職種の企業を調べてみる②			不足分は学校外で消化しておくこと		
	11	面接対策①			不足分は学校外で消化しておくこと		
	12	面接対策②			不足分は学校外で消化しておくこと		
	13	面接対策③			不足分は学校外で消化しておくこと		
	14	小論文対策①			不足分は学校外で消化しておくこと		
	15	小論文対策②			不足分は学校外で消化しておくこと		
	※学習する分野の順番は、4月1日時点での予定			不足分は学校外で消化しておくこと			
評価方法	(1)毎回授業で扱うプリントや作文を提出し、添削後、評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	◎			○		100%
発表・作品							
履修上の注意	全授業回数の3分の2以上の出席を満たさないものは、評価しないものとする。						